

心づかいと思いやり

今週火曜日の朝、トントンと校長室のドアをノックして、2年生のMさんが入ってきました。

用件は、年賀状を出したいので住所を教えてくださいということでした。今年、養父が亡くなっているため、喪中のために年賀状のやり取りはできないことを説明しました。そういえば、Mさんは去年も手書きのかわいい年賀状をくれたなあと思い出し、その心づかひに感心しました。「おもちゃフェスティバル」の感想文で、Mさんと同じグループだったSさんは、自分たちが司会の練習をしているときに、Mさん一人で作品作りを頑張ってくれたと書いています。司会の仕事を任せられた二人のことを気づかいながら一人黙々と作品づくりをしているMさんの姿が目には浮かびます。

さて、先々週から4年生が「赤い羽根共同募金」を呼びかけ、総額1万5千351円の募金を集めました。この募金は、約70%が地域で、残りの約30%が地域外の県内で使われ、その使い途は地域福祉活動の助成や大規模災害が起こった際の準備金として積み立てられます。4年生は先日、キャップハンディ体験や手話の学習も行いました。これらの活動を通して、思いやりの大切さを学びました。

「心づかい」には、人のためを思って積極的に行動する、「思いやり」には、同情を伴いながら相手の気持ちを理解しようとする、若干のニュアンスの違いが感じられます。しかし、「人のことを考えて行動する。人の役に立ちたい。」という優しい気持ちが土台になっていることは共通していますね。